

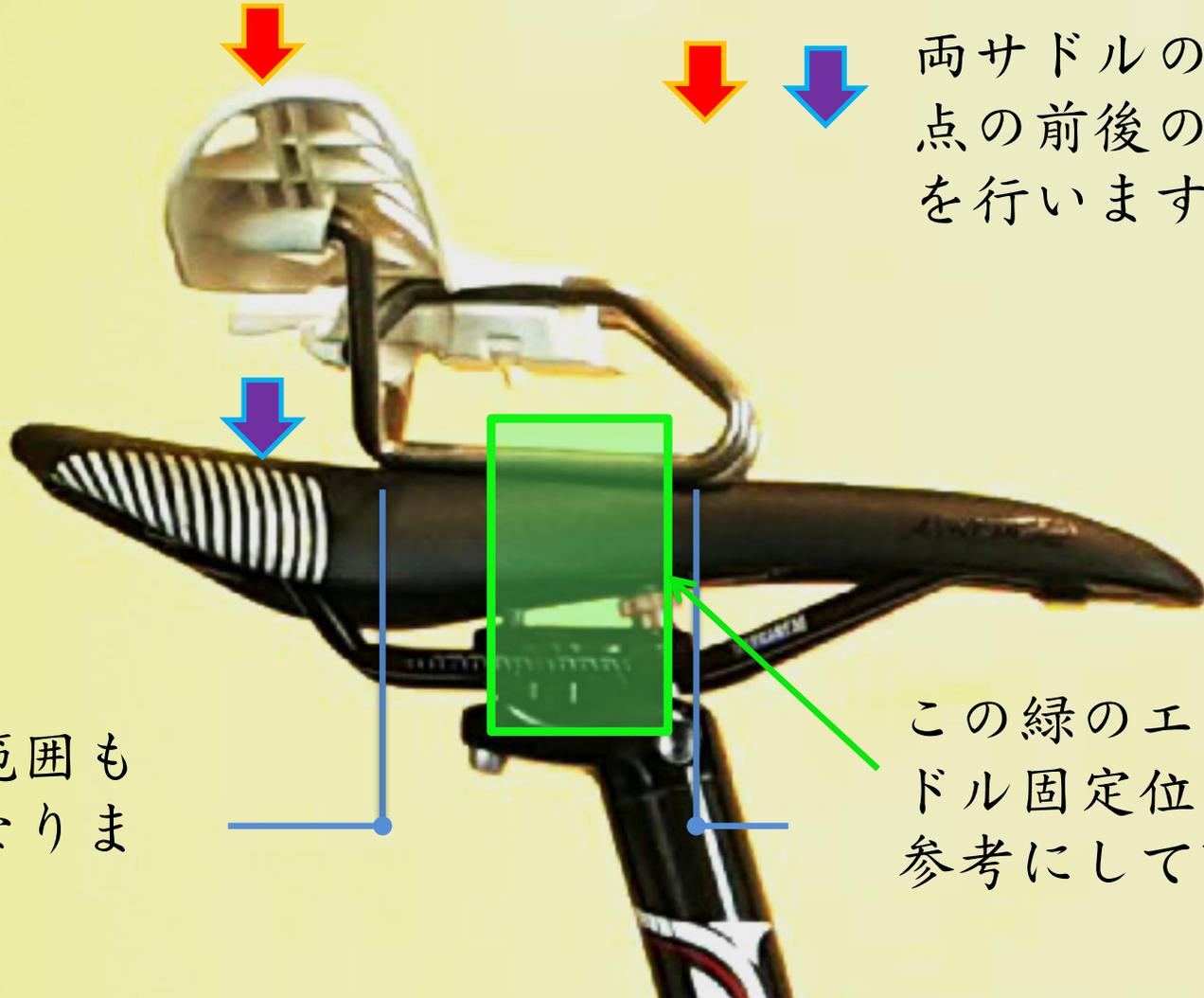
1



 青色の坐骨対応点に坐骨で座るようにして下さい

1. 青色の坐骨対応点に坐骨で座るようにして下さい

2



両サドルの坐骨対応点の前後の位置合わせを行います。

有効調整範囲も完全に重なります

この緑のエリアをサドル固定位置として参考にして下さい。

2. オールウイングサドルの坐骨対応点と従来のサドルの坐骨対応点が重なる時は、

オールウイングサドルと従来のサドルのサドルレールの有効調整範囲も完全に重なります。

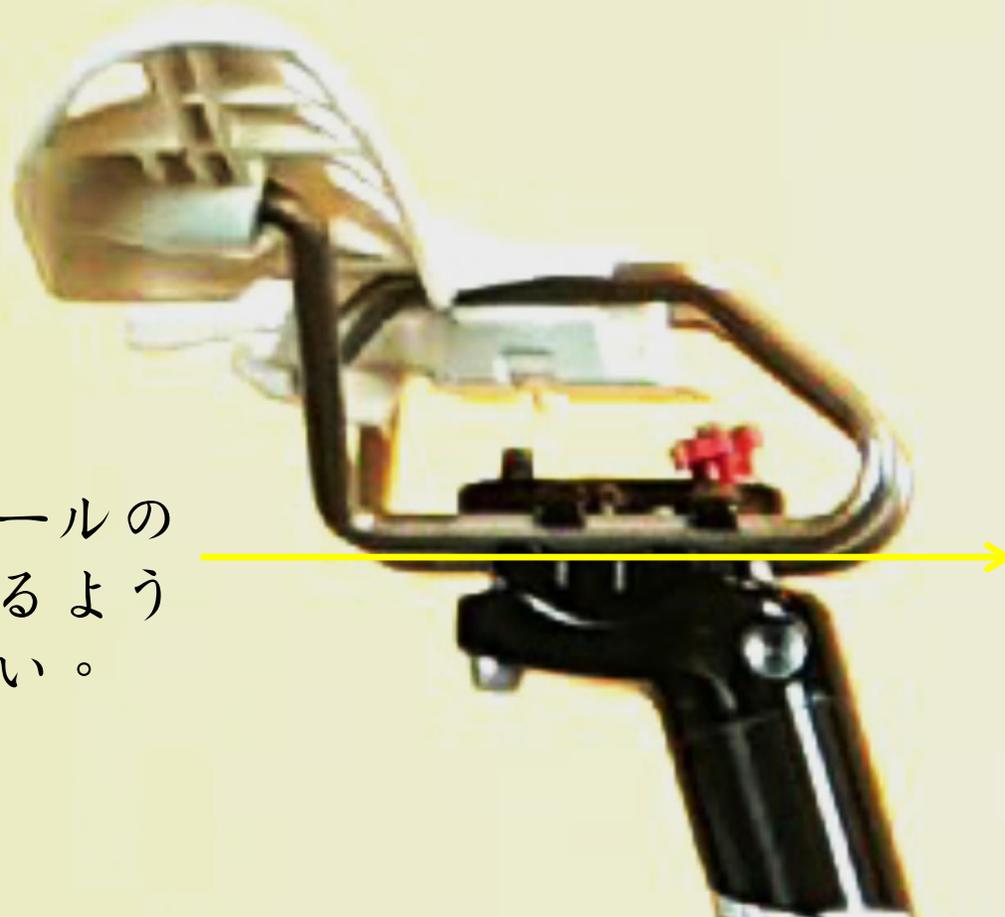
両サドルの坐骨対応点の前後の位置合せを行います。

元々取り付けていたサドルを取り外す前に、

まず両者のサドルレールの取付け位置を比較参考する事をおススメ致します
(緑のエリア)

3

サドルの下側レールの
角度が水平になるよう
に取付けて下さい。



3. 最初に取付けする際はサドルレールの下側レールの角度を基準に水平な角度を出して下さい。

4. サドルの高さ設定



ペダルの軸心

4. サドルの高さ設定

坐骨対応点に坐骨を正確に合わせて座った後、踵でペダルの軸心を踏んで、下死点の位置までペダルを合わせます。
足が一直線になった状態でしっかりペダルの軸心を踏む事ができれば、そこが理想的で正しいサドル高になります。

初めてオールウイングサドルを使用される方は、
まず最初にこの高さを基準にして、それから1cm～2cm下げてサドル高を設定する方法をおススメしております。
上記方法ですとオールウイングサドルに比較的簡単に適応できます。
その後50km走る毎に0.5cm～1cm調整を行って下さい。

5



5. ペダルとクリートを嵌めた後、太腿と脛に少し角度がつきます。

6. サドル前後の位置設定



6. サドル前後の位置設定

サドルの正確な位置に座った後、踵でペダルの中軸を踏んで、3時の位置にペダルが来た時に脛骨が地面と垂直な角度になるようにします。
この時の位置が理想的なサドルの前後位置になります。

個人的感覚と乗車習慣に基づいて前後2cmの範囲でサドル位置の微調整を行って下さい



少し角度がつきます。

7. クリートをペダルに嵌めた際、膝からくるぶしへの直線と膝から垂らした重し付の紐との間の頂角はおよそ10度～15度となります。
腰以下の調整箇所はここまででおおよそ完成です。

注：7までの調整が完了後、例えば肘を軽く曲げた状態でブラケットを両手で握れない場合やブラケットを握った際にサドルから臀部の坐骨が離れてしまう場合は、フレームのトップチューブが長すぎるか、フレームサイズが大きすぎる事を示しているため短めのステムに交換を行う必要があります。そうでなければ、長距離を乗車した際に手が痺れたり高ケイデンスでのペダリングの際に身体が跳ねる場合があります。

Q & A

Notice

All-wings saddle

type-Falcon installation and adjustment Q&A

乗車時に以下のような状態になった場合の解決法

Q1. 使用を開始してまもなく、体が前方に滑り座り続けていられない場合

A:

1. サドル角度を5度~10度後方側に角度調整して下さい
(サドルの下側レールの角度を基準にして下さい)
2. もしくは、シートポストの高さを下げてください。
3. もしくは、サドル位置を前方に移動させて下さい。

オールウイングサドルに適応した後、身体がもう前方に滑り落ちなくなった時は徐々にサドルの角度を水平にして下さい。

こうする事で更にスムーズにペダリングができるようになります。

Q2. 両肩か腕に疲労感がでる場合A:

1. サドル角度を後方側に少しだけ角度調整して下さい。
2. もしくは、シートポストの高さを下げてください。
3. もしくは、サドル位置を前方に移動させて下さい。

Q3.局部もしくは太股の内側がサドルレールに擦れる場合

A:

- 1.シートポストの高さを下げてください。
- 2後ろに座りすぎているかもしれないので、坐骨で座る点を少し前方に移動させて下さい。
- 3.サドルの角度が後ろに傾きすぎているかもしれないので、角度を調整して下さい。

Q4.ペダリング時に太股の後ろで突っ張り感・引っかかり感を感じる

A:

- 1.サドルの高さを下げてください。
- 2後ろに座りすぎているかもしれないので、坐骨で座る点を少し前方に移動させて下さい。
- 3.サドルが後ろ側に角度が付いている場合は緩い角度に調整するか、オールウイングサドルに完全に適応した後に少しだけ前側に傾斜角度を調整して下さい。

Q5. 一定時間乗車後、両手に痺れを感じる

A:

1 この状況は通常、乗車時に腕を一直線に伸ばして乗る個人的習慣が原因のため、

乗車時は腕をすこし曲げて乗る事をおススメ致します。

2. サドルに座る場所とブラケットまでの距離が長すぎる可能性があります。これは通常、フレームの長すぎるトップチューブが原因のため、短いステムに交換する事で改善が可能です。

☆☆☆ 寒冷・乾燥地域での使用時の注意事項 ☆☆☆

サドル面のナイロン素材が水分を吸収した際に、強靱で弾力のあるナイロンの物質特性が現れます。

寒冷・乾燥地域..... 低気温での長時間の使用、0度に迫る気温や、氷点下、相対湿度40%以下の環境下ではナイロン本体は次第に水分を失ったり、氷状に固まり、破損しやすくなります。手で軽くサドルを押した際に全く弾力性が無い状態にサドルが変化しているようでしたら破損や怪我の恐れがあるため、サドルの使用はやめて下さい。

40度～50度の熱湯に30分から1時間サドルを浸して頂ければサドル特性のしなやかさと弾力性が戻ります。

☆☆☆ 高温な沸騰水の使用厳禁 ☆☆☆

☆☆☆ 2時間以上高温な水の中にサドルを浸す行為は厳禁 ☆☆☆